

この添付文書をよく読んでから使用して下さい

届出番号 27A2X00125000038

**2016年3月改訂(第3版)

*2008年5月改訂(第2版)

体外診断用医薬品

Code E 414-38191

E 418-38194

E 419-41191

418-62301

E 415-67791

464-45301

不飽和鉄結合能キット Lタイプウコー UIBC

(バソフェナントロリン直接法)

〔一般的な注意〕

- (1) 本製品は体外診断用であり、それ以外の目的に使用しないで下さい。
- (2) この添付文書に記載された使用方法に従って使用して下さい。記載された使用方法および使用目的以外での使用については、測定値の信頼性を保証しかねます。
- (3) 測定機器は取扱説明書に従い適切な条件下で使用して下さい。なお、詳細については機器メーカーに問い合わせて下さい。
- (4) 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果と併せて担当医師が総合的に判断して下さい。

〔形状・構造等(キットの構成)〕

- (1) 緩衝液

(グリシン緩衝液
硫酸第一鉄アンモニウム)

- (2) 発色試液

(グリシン緩衝液
バソフェナントロリンスルホン酸ナトリウム
アスコルビン酸)

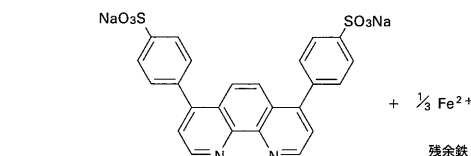
〔使用目的〕

血清中又は血漿中不飽和鉄結合能(UIBC)の測定

〔測定原理〕

試料に既知過剰量の鉄を含む緩衝液を加えますと、試料中の不飽和トランスフェリンは緩衝液中の鉄と定量的に結合し、飽和トランスフェリンになります。次に還元剤(アスコルビン酸)とバソフェナントロリンスルホン酸ナトリウムを含む発色試液を添加しますと、結合しなかった残余鉄だけがキレート化合物を生成し赤色を呈します。この赤色の吸光度を測定し、既知過剰量の鉄から残余鉄量を差し引くことにより試料中の不飽和鉄結合能(UIBC)を求めます。

不飽和トランスフェリン + 既知過剰量の鉄 → 飽和トランスフェリン + 残余鉄

バソフェナントロリンスルホン酸ナトリウム + 1/3 Fe²⁺ → バソフェナントロリンスルホン酸ナトリウム-Fe²⁺ キレート

〔操作上の注意〕

- (1) 測定試料の性質、採取法

(イ)採取後の検体は速やかに測定して下さい。
(ロ)抗凝固剤の EDTA は正誤差を与えますので使用しないで下さい。
(ハ)抗凝固剤のヘパリン、クエン酸塩、シュウ酸塩および解糖阻止剤のフッ化ナトリウムは通常使用量では測定値に影響を与えません。

- (2) 妨害物質・妨害薬剤

(イ)溶血、アスコルビン酸、ビリルビンは測定値にほとんど影響を与えません。

〔用法・用量(操作方法)〕

- (1) 試薬の調製方法

緩衝液：そのまま使用して下さい。
開封後は2～10℃保存で1か月以内に使用して下さい。発色試液：そのまま使用して下さい。
開封後は2～10℃保存で1か月以内に使用して下さい。

- ** (2) 必要な器具・器材・試料等

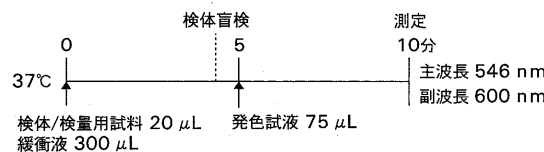
自動分析装置：適用可能な機種については別途お問い合わせ下さい。

検量用試料：マルチキャリブレーター A (別売品) 又は血清マルチキャリブレーター (別売品)

使用に際しては、マルチキャリブレーター A、血清マルチキャリブレーターの現品説明書を参照して下さい。

- ** (3) 測定法

〈標準操作法〉

検量用試料：マルチキャリブレーター A (別売品)
血清マルチキャリブレーター (別売品)

〈UIBCの求め方〉

検量用試料の吸光度より作成した検量線より求めます。

〈各種自動分析装置への適用〉

各自動分析装置の取扱方法に従ってパラメーターを入力し、測定して下さい。パラメーター表は別途請求して下さい。

〔測定結果の判定法〕

参考正常値⁽²⁾ 191～269 µg/dL (血清)

〔性能〕

〈性能〉

- (1) 感度

(イ)生理食塩液を試料として操作した場合の吸光度は、0.06～0.26です。

(ロ)特定濃度の管理血清(UIBC 200 µg/dL)を試料として操作した場合の吸光度は、0.01～0.05の範囲内です。

- (2) 正確性

既知濃度の管理用血清を測定するとき、既知濃度の±15%以内にあります。

- (3) 同時再現性

同一検体を5回同時に測定するとき、測定値のCV値は5%以下です。

- (4) 測定範囲

UIBC 5.8～600 µg/dL です。(標準操作法による)

〈較正用の基準物質(標準物質)〉

化学物質評価研究機構(CERI) 鉄標準液(JCSS, Fe: 1000 mg/L)

〔使用上又は取扱い上の注意〕

〈取扱い上(危険防止)の注意〉

- (1) 試薬が誤って口や目に入ったり、皮膚に付着した場合には、直ちに大量の水で洗い流し、必要があれば医師の手当等を受けて下さい。
発色試液は pH 3.0 の酸性溶液です。

〈使用上の注意〉

- (1) 試薬は指定された条件で保管し、使用期限を過ぎたものは使用しないで下さい。
- (2) 誤って凍結させた試薬は使用しないで下さい。正しい結果が得られないことがあります。
- (3) 試薬の開封後はなるべく早く使用し、保存する場合は蓋を閉めて指定の条件で保存して下さい。
- (4) 本品中の容器、付属品は他の目的に転用しないで下さい。

〈廃棄上の注意〉

- (1) 廃棄に際しては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)及び排水基準に従って適切に処理して下さい。
緩衝液中に四木ウ酸ナトリウム(木ウ素として869 mg/L)を含有しています。
- (2) 検体と接触した試薬及び試薬容器等は、感染の危険性があるものとして処理して下さい。

〔貯蔵方法・有効期間〕

	(貯 法)	(有効期間)
Lタイプウコー UIBC		
緩衝液	2～10℃保存	製造後1 か年間
発色試液	2～10℃保存	製造後1 か年間

*〔包装単位〕

(コード番号)	(品 名)	(識別記号)	(包 装)
	L タイプワコー UIBC		
418-38091	緩衝液		280 mL×4
412-38094	〃		70 mL×4
414-38191	発色試液		70 mL×4
418-38194	〃		18 mL×4
413-41091	L タイプワコー UIBC	S-R1	38 mL×4
	緩衝液		
419-41191	L タイプワコー UIBC	S-R2	11 mL×4
	発色試液		
412-62201	L タイプワコー UIBC	F-R1	70 mL×4
	緩衝液		
418-62301	L タイプワコー UIBC	F-R2	18 mL×4
	発色試液		
419-67691	L タイプワコー UIBC	PM-R1	38 mL×4
	緩衝液		
415-67791	L タイプワコー UIBC	PM-R2	11 mL×4
	発色試液		
464-45301	L タイプワコー UIBC	C	セット
	（緩衝液		53 mL×2）
	発色試液		17 mL×2）

〔主要文献〕

- (1) Ramsay, W.N.M. : Clin. Chim. Acta, **2**, 221-226(1957).
 (2) 金井 泉, 金井正光 : 「臨床検査法提要」第29版, 487-491(金原出版)(1983).

〔問い合わせ先〕

富士フィルム 和光純薬株式会社
 臨床検査薬 カスタマーサポートセンター
 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目4番1号
 Tel : 03-3270-9134(ダイヤルイン)

**〔別 売〕

(コード番号)	(品 名)	(包 装)
413-41591	マルチキャリブレーターA (鉄 200 µg/dL)	5 mL×4
468-61701	血清マルチキャリブレーター (表示値はロットごとに異なり 現品説明書に記載しています。)	2 mL×6

製造販売元

富士フィルム 和光純薬株式会社
 大阪市中央区道修町三丁目1番2号

Wako

18.01.12K07